

2022 年度 11 月定例会(12 月 6 日) 松谷清議員 総括質問に関する質疑全文

○松谷 清君 それでは、通告に従いまして2点の質問をさせていただきます。

まず、台風 15 号で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、議会の一員として行政の皆さんと連携しながら、一日も早い復旧・復興に向け力を注ぎたいと考えます。

既に多くの議員から、台風 15 号災害対応の課題検証の観点から、様々な質問、答弁がなされております。

台風 15 号は、24 時間降雨量 417 ミリ、1 時間当たり 107 ミリと、七夕豪雨に匹敵する大災害となりました。私自身は水害常襲地帯の城北学区在住で、豪雨のたびに地域の見回り活動に従事しております。24 日の朝方1時半くらいまで、麻機遊水地第4工区付近にいました。2時頃からの 12 時間停電、携帯電話もつながりにくい情報隔離に置かれたわけであります。

24 日午後1時に災害対策本部が設置され、26 日朝8時半に第1回対策本部が開催され、自衛隊出動要請などが決定されたとのことであります。

こうした経緯の中で田辺市長は、9月 26 日と 10 月 28 日の記者会見で、想定を上回る雨と発言されております。2011 年3月 11 日の東日本大震災原発事故において東京電力が、想定外の地震・津波として自らの責任を回避し続けてきた経緯と重なり、危惧するところであります。

政府は、気候変動による災害の激甚化を想定した流域治水計画を打ち出し、昨年、県内の一級、二級河川で流域治水プロジェクトが策定されました。その意味で、台風 15 号は想定され得る災害でもありました。

そこで、まず治水対策について、この想定を上回る雨に対して、気候変動の影響を踏まえ、どのように取り組んでいるのか、伺いたいと思います。

2つ目に、災害対応について伺います。

災害対応について、昨日まで反省の答弁が結構示されています。今後、検証していく上で、9月 26 日の災害対策本部の議事録、それから記者会見議事録を基に、お手元に資料があるんですけども、自衛隊派遣について再確認させていただきたいと思います。タブレットのほう、よろしく願います。

災害対策本部議事録によると、危機管理統括監は、自衛隊派遣は、自衛隊のほうで対応できるような内容が出てくればと、保健福祉長寿局長は、絶対的に水が不足、派遣検討が必要、大長副本部長は、病院の水は重要と。それを受け、市長が災害派遣を要請すると決定したわけであります。ただ、11 時からの記者会見議事録では、市長は、自衛隊への要請は承元寺取水口の復旧と発言されております。自衛隊派遣の要請内容はどのように決めたのか、伺います。

3つ目に、防災力の重要な柱となります災害ボランティアセンターについて伺います。

災害ボランティアセンターは、県内では磐田市が一番早く、静岡市は、9月 26 日に立ち上がり、29 日が初動でありました。葵区、駿河区では、センター拠点が次々変更になるなど、不安な出発でありました。立ち上げ訓練はどのように行われてきたのか、伺いたいと思います。

次に、みどりの食料システム戦略について伺います。

第4次総合計画の基本構想、基本計画が議会に示されております。一方で、農業の将来像として、2040 年を見据えた8年間射程の農業振興計画案もパブコメにかかろうとしております。

こうした中で政府農水省は、これもタブレットに資料があるんですけども、みどりの食料システム法に基づき、大胆にも、2050 年までに有機農業面積を 25%、現在は 0.4%で、2万 3,500 ヘクタールを 2050

年に 100 万ヘクタールにするというわけであります。ネオニコチノイドなど化学農薬 50%、化学肥料 30% 削減などを内容とするみどりの食料システム戦略を策定しました。

有機農業が一般的な農業との比較において脱炭素社会に向かう優位性があることは、環境保全型農業直接支払交付金制度に関する第三者委員会においても示されております。以下、2点質問します。

まず、農業振興計画の実情なんですけれども、本市における有機農業を実施する面積と農業者数、栽培されている作目の現状と、国の環境保全型農業直接支払交付金事業の取組状況はどのようなか、伺います。

次に、学校給食の食材について伺います。

静岡市の学校給食では、自校式、センター方式、それぞれ調理システムの違いがあります。それぞれの学校給食における地場産物と有機産物の使用の状況がどのようになっているか伺って、1回目とします。

30○建設局長(池谷 誠君) 想定を上回る雨に対しての気候変動の影響を踏まえた取組についてですが、巴川流域では、現在、河川整備計画等により、整備目標をおおむね 10 年に1回発生する降雨で時間雨量 69 ミリ、24 時間雨量では 271 ミリの降雨規模に対応するため、県と市が連携して整備を進めております。

今回の台風 15 号による雨は、議員の御発言のとおり、最大1時間降水量 107 ミリ、24 時間降水量は 417 ミリで、線状降水帯の発生により、激しい雨が何時間も継続して降るなど、記録的な豪雨により、整備計画で想定していた雨量を上回る雨だったと考えています。

また、気候変動の影響により、水災害が激甚化、頻発化する中、国土交通省では、令和2年7月に総力戦で挑む防災・減災プロジェクトを取りまとめ、主要施策として、あらゆる関係者により流域全体で行う流域治水への転換や、気候変動の影響を反映した治水計画等への見直しなどを強力に推進していくこととしております。

このようなことも踏まえ、巴川流域では、現在、県と市が一体となって流域治水プロジェクトにより、ハード、ソフトの総合的な流域対策を推進しているところであります。

今後も、今回の台風 15 号による豪雨も想定しつつ、国の気候変動の影響による防災・減災の取組の動向も注視しながら、流域治水対策に取り組んでいきたいと考えています。

31○危機管理統括監(梶山 知君) 自衛隊派遣の要請内容についてですが、自衛隊派遣については、給水支援と浄水場建屋内の土砂除去支援の2つを要請内容として、9月 26 日に県を通じて派遣要請いたしました。

要請に至った経緯としては、9月 26 日の災害対策本部会において、所管局から清水病院などの医療機関の水が不足しているとの報告を受け、緊急性が高まったと判断したことから、まずは自衛隊に派遣要請する旨を決定しました。

要請内容については、医療機関等における水不足が深刻であったため、給水車による応急給水活動が必要と判断し、給水支援を要請することといたしました。また、興津川承元寺取水口の閉塞が断水の主な要因であったため、被災当初から、施設を熟知した地元業者等により流木撤去等を進めておりましたが、復旧作業が進むにつれ、徐々に作業スペースが確保されるなど、人海戦術による復旧作業が行える状況が整いつつあったことから、土砂除去支援についても要請することといたしました。

32○市民局長(草分裕美君) 災害ボランティアセンターの立ち上げ訓練はどのように行われてきたかについてですが、本市は、災害ボランティア本部及び各地区の災害ボランティアセンターの設置者として、

運営主体の静岡市社会福祉協議会や災害ボランティアコーディネーターなどと、合同による立ち上げ訓練を毎年、実施しております。

その内容としては、立ち上げ後の運営手順の確認のほか、立ち上げに当たり必要な被災状況の情報収集と共有が迅速に行われるよう、発災直後からの職員の役割の確認や、収集した情報を地図上へ落とす訓練などを実施しています。

今回の災害においては、発災後の9月 24 日の午前中から、市社会福祉協議会の職員等が速やかに各地域の被災状況の調査を行い、同日午後には災害ボランティアコーディネーターを含めた情報共有ができたことは訓練の成果であると考えています。

一方、被災状況に応じて設置するサテライト拠点の立ち上げに当たり、使用可能な設備や動線の具体的な想定が十分ではなかったことや、センターの活動開始までの期間を短縮できなかったのかなどについては、今後、検証が必要であると考えています。

今後、市社会福祉協議会等と対応の検証を行い、災害の規模や被災地域の状況など様々なケースを想定し、対策に生かしてまいります。

33○農林水産統括監(川崎 豊君) 本市有機農業の現状と国の環境保全型農業直接支払交付金事業の取組状況についてですが、2020 年の農林業センサスでは、本市有機農業の取組面積は 111 ヘクタールで全耕地面積の 4.6%を、取組経営体数は 182 経営体で全経営体の6%をそれぞれ占め、いずれも県全体と同水準となっており、栽培作物としては、茶をはじめ、果樹や野菜、水稲となっています。

次に、環境保全型農業直接支払交付金事業についてですが、本交付金事業は、有機農業のほか、化学肥料、化学農薬を5割以上低減する取組など、環境負荷低減に取り組む農業者を支援するもので、農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律に基づく制度として平成 23 年度から実施しています。

令和3年度の実績としては、17 経営体、取組面積 39 ヘクタールで実施され、その取組内容の9割が有機農業となっており、直近5か年では、経営体数と取組面積はともに増加傾向にあります。

34○教育局長(青嶋浩義君) 学校給食における地場産物と有機農産物の使用状況についてですが、本市では、ニンジン、ジャガイモなど、各食材を1品目と数え、学校給食で使用した全体の品目数から、市内、県内、国内等のそれぞれの産地の品目数の割合を使用率として算出しています。

最初に、令和3年度の地場産物の使用率は、学校給食センターでは、市内産が 17%、県内産が 44%、国内産が 94%でした。また、学校内で調理を行っている単独調理の学校、いわゆる自校式では、市内産が 18%、県内産が 43%、国内産が 97%となっており、センター方式と自校式で地場産物の使用率に大きな差はありませんでした。

次に、令和3年度の有機農産物については、学校給食センター及び単独調理の学校ともに使用の実績はありませんでした。

〔松谷 清君登壇〕

35○松谷 清君 それでは、2回目の質問をいたします。

気候変動の影響を反映して国の動向を注視するということなんですけれども、麻機遊水地事業は、議会事務局が作成した市政概要によりますと、50 分の1確率で 350 万立米を目標にし、昨年度までに 10 分の1確率で 210 万立米が完成したとあります。

静岡県河川課によりますと、麻機遊水地の今回の最大貯水量は、通常、堤防から 60 センチのところまでカウントするんですけれども、3センチのところまで水がたまり、280 万トンだったとのことあります。210

万トンをはるかに超える水量がたまったわけであります。

これだけ多く貯留したにもかかわらず、今回の巴川における浸水被害が広範囲となった原因としてはどのようなことが推定されるか、伺いたいと思います。

また、市が整備する流域貯留施設の進捗状況はどうなっているのか、お伺いいたします。

次に、災害対応についてお伺いします。

答弁では、病院の給水と興津川承元寺取水口の土砂除去で自衛隊へ要請したということなんですけれども、議事録を見ると、災害対策本部では病院、記者会見では興津川というふうになっているんですよ。その過程がどうであったかということ、やはりきちんと事実関係として押さえる必要があるだろうと。

そうした中で、26 日に自衛隊へ要請したわけなんですけれども、取水口建屋内の土砂撤去は 27 日の夜となっているわけであります。それはなぜなのか、改めてお伺いします。

次に、9 月 30 日、第 2 回災害対策本部の議事録によれば、市長が災害対策本部の体制確立・再編成が必要だというふうに述べられているわけなんですけれども、それはなぜなのか、お伺いいたします。

3 点目に、災害ボランティアセンターについてお伺いいたします。

何回かサテライトは訪問しました。最初はおぼつかない社協職員も、村上市からはせ参じてくれた全国の NPO、NGO が持つ極めて高いスキルに触れ、また関東地区の社協職員の経験値から大きな学びを得て、日ごとに非常にレベルアップしていった印象であります。

追加補正予算で 2,900 万円の災害ボランティア本部運営費助成の計上がありますけれども、災害ボランティアセンターの運営体制及び市からの財政的支援はどうなっているのか、伺いたいと思います。

次に、みどりの食料システム戦略についてお伺いいたします。

今、御答弁いただいたんですけれども、有機農業の実情は、静岡県は全国平均よりも少しレベルが高いわけであります。農水省が掲げるみどりの食料システム戦略では、有機農業面積ですと、2050 年に 25% という目標を掲げているわけでありますけれども、ただいま答弁いただいた現状を踏まえて、第 4 次総合計画及び農業振興計画にどのように反映させるのか。また、これまでの農業振興計画には有機農業の視点は無いわけでありまして、そこはどのような指標を設定しようと考えているのか、お伺いしたいと思います。

そして、昨年 11 月議会で農地を活用したソーラーシェアリングについて、私は質問させていただいておりますけれども、脱炭素への取組ということで、農業振興計画を策定する際に検討するという答弁をいただいているわけですが、どういう状況なのか、伺いたいと思います。

次に、学校給食の食材について、お伺いいたします。

御答弁いただいて、地場産物についてはかなりきちんと調査もされているわけでありますけれども、有機農業はまだまだという状況であります。

政府の有機農業への大胆な取組が始まろうとする中で、千葉県のいすみ市では、生産者に提案して、そのお米を学校給食に導入するということが始まっているわけであります。今治市では、無農薬野菜の取扱いは当然なんですけれども、有機米と一般米では若干有機米が高いわけでありますが、高い分を市が負担するというので学校給食に導入しているわけであります。

その意味におきまして、学校給食の有機農産物の使用をどのように考えているのか伺って、2 回目の質問を終わります。

36○建設局長(池谷 誠君) 浸水被害の原因と流域貯留施設の進捗状況についてですが、まず浸水被害の原因として、今回の台風 15 号による豪雨は、1 時間に約 40 ミリから 80 ミリの激しい雨が 4 時間程

度継続し、2時間のやや強い雨の後、最大1時間降水量 107 ミリの記録的で猛烈な雨を観測しております。

この豪雨により、巴川では、最初の4時間の激しい雨で氾濫危険水位を超過した観測所が多数あったことから、この時点で巴川の水位上昇により支川や水路から排水ができず、いっぱいとなりあふれて、周辺に比べ低い土地から浸水被害が広がっていったと考えられます。そして、その後の記録的な雨により、巴川の各所であふれて周辺に流れ込んだことにより、甚大な浸水被害になったと推測されます。

次に、巴川流域で市が整備する流域貯留施設については、巴川流域水害対策計画に基づき、目標対策量として、約 10.4 万立方メートルを公共施設で整備することになっております。令和3年度末の進捗状況は、約 5.9 万立方メートルの整備が完了し、残り約 4.5 万立方メートルとなっております。

37○危機管理統括監(梶山 知君) 災害対応について、2つの御質問にお答えします。

まず、自衛隊の土砂撤去作業については、9月 26 日に要請いたしましたが、その後、施設を熟知した地元業者等による復旧作業が進み、現場の作業スペースが確保されるなど、土砂除去作業の準備等が整ったことから、27日に作業が開始されました。

次に、配備体制の確立と再編成についてですが、今回の台風では、大規模な浸水被害や土砂崩れ等が発生したほか、特に清水区では広範囲において断水したため、迅速な被害情報の収集と集約化、必要な情報の発信、市内部や各関係機関等との活動調整、災害協定締結先への要請と受入れ体制の確保、庁内職員の動員業務、対策本部会等の運営など、様々な災害対応が求められました。

これらの業務は、主に災害対策本部の要となる総括部が担うこととなりますが、膨大な災害対応業務を同時期に行う必要があったこと、また、必要な行政サービスを継続しなければならなかったことから、配備体制を見直すことで、災害対応に支障を来すことがないよう総括部を再編成することといたしました。

38○市民局長(草分裕美君) 災害ボランティアセンターの運営体制及び市からの財政的支援についてですが、災害ボランティア本部及び災害ボランティアセンターの運営は、静岡市社会福祉協議会の地域福祉部長を本部長とし、同協議会職員や災害ボランティアコーディネーターなどが行っています。

また、運営の財源については、市社会福祉協議会の自己資金や赤い羽根共同募金の災害等準備金などを活用しています。

なお、今回は、災害救助法の適用により、ボランティアの調整業務に従事する、他都市からの応援を含む社会福祉協議会職員の時間外勤務手当や旅費相当の一部については、本市からの委託業務として扱われます。そのほか、センターと連携して土砂の撤去を行っている専門技術を有するNPO等が使う建設機械の燃料費について、本市が支援します。

また、今回の災害における被害の大きさや支援のために必要な活動規模を考慮すると、本市としてもセンターの円滑な活動を財政的に支援する必要があると考え、サテライトの開設や運営に要する経費を助成するため、その予算案を本議会に上程します。

災害ボランティアセンターの機能が最大限発揮されるよう、今後も必要な支援に取り組んでまいります。

39○農林水産統括監(川崎 豊君) 国のみどりの食料システム戦略を踏まえ、第4次総合計画及び農業振興計画にどのように反映していくのか、また、脱炭素への取組について一括してお答えします。

第4次総合計画の農林水産分野では、南アルプスから駿河湾までの多彩な資源を活かし、持続可能な農林水産業を営むまちの実現を目指す姿勢とし、本市の第一次産業が成長産業となるよう、省力化や

効率化に加え、環境負荷を低減する新技術の導入を推進することとしています。

また、令和5年度から始まる次期農業振興計画では、農業所得の向上と担い手の確保を引き続き、目標とするとともに、国が進める温室効果ガス削減や環境保全につながる環境負荷を低減した農業の推進を同計画の実施方針の1つとして位置づけます。

具体的な施策としては、国の目標である化学肥料と化学農薬の使用量低減の取組や農業用ドローンを活用した生産技術の導入のほか、ソーラーシェアリングを含む再生可能エネルギーの活用などを支援することとし、環境負荷を低減した農業に係る成果指標を設定することで、これを推進してまいりたいと考えています。

40○教育局長(青嶋浩義君) 学校給食の有機農産物の使用についてですが、環境負荷の低減の観点から、学校給食における有機農産物の使用については有用であると考えております。しかしながら、本市においては、有機農産物の使用に課題もあると認識しております。

現在、市内での有機農産物の流通量は少ないため、学校給食での使用に必要な納入量を安定して確保することが困難な状況です。加えて、有機農産物は、栽培管理や手間がかかり、収穫量も多くないことから、価格も通常、使用する農産物に比べ高価となっています。

今後は、他都市の事例などを含め研究を進めてまいります。

〔松谷 清君登壇〕

41○松谷 清君 それでは、3回目の質問をします。

治水計画について、るる御答弁いただいたんですけども、気候変動による水害の激甚化に向けて、これまでの治水計画を上回る計画をつくらなきゃいけないということで、安倍川、巴川、興津川などの流域治水プロジェクトが昨年、立ち上がっております。

滋賀県では、2014年当時の嘉田由紀子知事の下で流域治水条例が制定されております。10月13日に参議院の議員の皆さんの現場視察がありましたけれども、11月13日に嘉田参議院議員が再度、巴川遊水地事業に関心を持って視察に来られたわけですが、同席もさせていただきました。

第1工区から第5工区まであるんですけども、第2工区が残っています。第2工区では、第2-1工区と第2-2工区に分けて、段階的な整備が計画されていて、現在は第2-1工区が整備中であります。そこで、流域貯留施設について、今後の整備の進め方はどうなっているのか、伺いたいと思います。

この流域貯留というのは、降った雨が河川とか下水のところに入る部分が大体70%、地面に入るのが25%、流域公共施設とかが5%ということになっているんですけども、この貯留量をどうするかというのが降雨量との関係で非常に重要なわけでありまして。その点でお伺いします。

それから、今回の浸水被害から、麻機遊水地第2-2工区の早期着工が当然、必要になるわけでありまして、どう考えるか。

また、遊水地事業全体のランドデザインとの整合性において、治水機能と自然環境の機能の2つが求められているわけでありまして。第1・第3工区のように、第2-2工区における公園の整備予定はどうなっていくのか、伺っておきたいと思います。

次に、災害対応についてお伺いします。

これは意見・要望なんですけれども、危機管理において想定を上回る言葉は、災害時のリーダーは極めて限定的、厳密に使わなきゃいけないわけでありまして、責任回避というふうには受け取られるんですね。その点で、昨日も危機管理統括監は、予想を上回る猛烈な雨という答弁をやっているんですけども、ここはきちんと言葉の意味を厳密にすべきだと思います。

次に、自衛隊派遣の要請については、第1回災害対策本部では病院だ、記者会見では興津川だ、それで、26日に要請したと言っているんですが、26日10時12分に県に市が要請し、10時25分に県から自衛隊に行き、それで午後3時に上下水道局と自衛隊は協議していますけれども、その日の作業は見送られているんですね。それで、27日の午前中の協議で夜の作業が決まるわけですが、あたかも最初からそういうことが想定されてきたかのように答弁されているんですが、私、これは非難しているんじゃなくて、事実関係をきちんと確認して今後に生かすべきだということを述べておきたいと思います。

災害ボランティアセンターについては、ぜひとも市の財政支援というのをきちんとしていただきたいなと思います。

次に、みどりの食料システム戦略についてでありますけれども、全国54の市町村が、みどりの食料システム戦略に基づいて、県内では掛川市と藤枝市が行っておりますが、オーガニックビレッジ宣言を行っています。この宣言は、2020年11月定例会での2050年ゼロカーボンシティ宣言と趣旨は重なるわけなんです。したがって、本市もここにぜひとも参加すべきだと思います。

このような状況の中でJAからは、2023年度静岡市政に対する要請書の中で、みどりの食料システム戦略を踏まえた、減化学農薬に向けた天敵農薬、生物殺菌剤等の利用助成が求められております。

今後、環境に配慮した農業を強力に推進していくためには、既に有機農業に取り組んでいる農業者や有機農業に関心を持つ新規農業者を含めた財政的な支援と同時に……

42〇議長(望月俊明君) あと1分です。

43〇松谷 清君(続) このような意向を持つ農業者間で情報を共有することができるようなネットワークが必要と考えますけれども、どのように考えているか、伺いたいと思います。

最後に、学校給食の食材についてでありますけれども、有機農産物の導入は、他都市の事例を研究という答弁がありましたけれども、有機米であれば導入は可能なんです。ある程度想定できます。

こうした学校給食の食材の前提は安全性にあります。遺伝子組換え食材の安全性、同じ遺伝子操作食材であるゲノム野菜の安全性についてどのように考えているか。

また、ゲノム食材の無料頒布が福祉施設、学校を通じて実施されようとしていますけれども、教育委員会としてどのように対応するのか伺って、質問を終わりたいと思います。

44〇建設局長(池谷 誠君) 流域貯留施設と麻機遊水地についての御質問にお答えします。

まず、流域貯留施設の今後の整備の進め方についてですが、巴川流域で市が整備する流域貯留施設は、これまで主に学校のグラウンドや公園の地表面を掘り下げて敷地に降った雨水を一時的に貯留するなど、河川への流出を抑制する施設として重点的に進めてきており、学校では整備が完了し、公園もおおむね整備が完了している状況であります。

今後は、新たな貯留施設の整備に向け、大内新田地区の市有地を活用した大規模調整池の整備や公園の新設に併せた整備などを進めていきます。

また、これと併せて、整備が完了した学校や公園においても、既存の貯留量を確保しつつ、地下空間を活用して隣接する河川などの大雨時の水位上昇による流水を取り込み、一時的に貯留するなど、洪水の調節機能を有する施設として、新たな整備手法も取り入れて整備を進めていきます。

今後も引き続き、貯留量の確保に向け、流域貯留施設の整備に重点的に取り組んでいきます。

次に、麻機遊水地の第2-2工区の早期着工についてですが、本日、お配りしました建設局の資料の麻機遊水地全体図を御覧ください。

県が整備を進めている麻機遊水地は、面積約200ヘクタールで、5つの工区のうち、灰色で着色した4

つの工区は既に完成し、現在、赤の点線で示した第2工区の整備が進められております。第2工区は、面積 93 ヘクタールで、進捗状況としては、2つの工区に分け、段階的な整備を進めております。

このうち、黄色で着色した第2-1工区は、面積 51 ヘクタールで、暫定供用しながら施工中で、令和7年3月の完成を予定しております。また、水色で着色した第2-2工区は、面積 42 ヘクタールで、整備時期は未定となっております。

このような状況の中、麻機遊水地の整備は、巴川の治水対策として重要な施設であり、今回の台風 15号による被害も踏まえると、第2-1工区の完成に引き続いて、第2-2工区の早期着工が必要であると考えています。今後も、県に進捗状況や整備予定時期を確認しながら、地元自治会等と組織する期成同盟会などにより要望していきたいと考えております。

45○都市局長(八木清文君) 麻機遊水地第2-2工区における公園の整備予定についてですが、麻機遊水地の5つの工区のうち、公園整備の取組は、第1工区 21.7 ヘクタールと第3工区 55 ヘクタールを都市緑地として計画決定し、第1工区において、静岡県と連携し、緑地の整備を進め、令和3年度にあさはた緑地として供用を開始いたしました。

第2-2工区については、現時点では、公園の整備予定はありません。

46○農林水産統括監(川崎 豊君) 環境に配慮した農業を推進するため、今後をどのように考えているのかですが、まず有機農業や減化学肥料、減化学農薬栽培に取り組む農業者については、引き続き、環境保全型農業直接支払交付金事業による支援を実施していくとともに、次期農業振興計画では、環境負荷低減に向けた取組をより一層推進するため、同交付金事業の対象とならないような農業者に対し、必要な資機材の購入経費や環境に配慮した農産物を消費者へPRする経費を一部助成する市独自の支援策を検討してまいります。

次に、有機農業等の推進に向けたネットワークにつきましては、現在、環境保全型農業直接支払交付金事業に取り組む農業者で組織する静岡市環境保全型農業協議会があります。今後は、本協議会が実施する有機農業に関する意見交換など、情報共有ができる場を通じて農業者同士がつながり、さらにネットワークが拡大するよう、市として支援してまいります。

47○教育局長(青嶋浩義君) 学校給食の食材に関する2つの御質問にお答えいたします。

最初に、遺伝子組換え食品やゲノム編集食品の安全性についてですが、双方とも、国において安全が確認され、流通しているものについては、安全性は確保されているものと考えます。

しかしながら、遺伝子組換え食品については、子供たちに食べさせることに不安を持つ保護者などへの配慮から、本市では、業者に遺伝子組換え食品の納入を控えるよう申し入れており、使用の実績はありません。

次に、ゲノム編集食品についても、現在、本市での使用実績はありませんが、今後、遺伝子組換え食品と同様の対応をするかなど、検討してまいります。

続いて、ゲノム編集された農作物の苗の無料頒布についてですが、市立の小中学校に対する働きかけは確認されておらず、配布はされておられません。

48○建設局長(池谷 誠君) 申し訳ございません。先ほど、麻機遊水地の第2-2工区の早期着工についての答弁の中で、お配りした資料と私の答弁が違っておりました。黄色で着色したというのはピンクで着色したが正解でございます。あと第2工区についても、赤の点線だと答弁したんですけれども、青の実線ということで、訂正させていただきます。申し訳ございませんでした。